

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 25

東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日
例会日 毎週月曜日 12:30~
例会場所 シェラトン都ホテル大阪
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06(6772)2320
FAX. 06(6772)2327
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会長 佐藤 三千秋
会長エレクト 百 濟 洋 一
副会長 和田 栗 一 良
幹事 大 畑 齊
会報委員長 宮 崎 康 治

MAKE DREAMS REAL 夢をかたちに

2008~2009年度 国際ロータリー会長 D. K. リー

第1714回例会 平成21年2月16日(月曜日) 第25号

本日の例会

2月16日(月) 第3例会

- ◎ソング 「四つのテスト」
- ◎卓話 「ボタン・釦について」
(担当:小川 高弘会員)
- ◎本日の献立 フランス料理

次回の例会

2月23日(月) 第4例会

- ◎卓話 「海にまつわる怖い話」
(担当:金子 勝信会員)
- ◎本日の献立 お造り定食

先週の例会記録

2月9日(月) 第2例会

- ◎ビジター 大阪東RC 田中経久氏 他3名

会長挨拶

会長 佐藤三千秋

先週の例会において米山奨学会寄付について、金子委員長の方から案内がありました。この件につき少し補足の話をして頂きたいと思えます。米山奨学事業はロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する日本独自の国際奨学事業です。米山奨学会の創設の目的は、昭和28年に日本

が再び戦争の過ちを繰り返さない誓いと、世界に“平和日本”の理解を促すことにあり、留学生が平和を求める日本人と出会い、互いに信頼し合う関係を築き、「世界の懸け橋」となることを願ってつくられたのです。

今年度から米山奨学会が始めた「米山学友ホームカミング制度」というのがあり、かつての米山奨学生だった人にホームカミングしてもらい、講演を聞く行事が昨年12月6日にありました。金子委員長も私も都合が悪く、大畑幹事に参加して頂きました。

大畑幹事さんから聞いた講演の内容に感動したので、すぐ委員会報告で皆さんに伝えて頂くよう依頼したのですが、「近いうちに卓話の時間が空いた時にします」ということで、大畑さん自身から話しをして頂くチャンスが無くなったのが誠に残念です。

代わりにその報告をさせていただきます。昭和48年・49年、台湾からの留学生陳思乾さんは、大阪淀川RCの世話で米山奨学生となったのですが、それまではアルバイトをして苦学生生活をしていたので、米山奨学金により勉学に専念でき、修士課程までいけたこと。ロータリアンの方々に悩みや相談に乗ってもらい親切にしてもらったこと等に

対して、台湾に帰ってからもずっと感謝の気持ちを持ちつづけ、現在では会社を興し、台北東海RCの会員となっておられるそうです。その感謝の気持ちを形にし、恩返しする事業として、米山奨学事業は日本独自ですが、台湾でも日本の奨学生を受け入れる制度が実現できることになったそうです。台北東海RCは会員34名で内11名が元米山奨学生で、例会は日本語で行っているそうです。サイフル君も学校を卒業したらマレーシアに帰るそうですが、このような形でホームカミングしてくれたらなあと思います。また、30数年前、当クラブで米山奨学生として初めて受け入れた蕭勝彦氏も陳さんのように今もって日本に対して感謝の気持ちを持っておられます。米山奨学会の大きな志を再認識して頂いて寄付のご支援をお願いします。

幹事報告

幹事 三木武志

1. クラブ協議会での各委員会上半期報告及び下半期計画書未提出の委員会は、ご提出お願い致します。
2. ロータリー手帳ご希望の方は回覧しておりますので、お申込下さい。
3. 東輪会第2回ゴルフコンペ、飛鳥CCご参加申込の回覧をしています。ホストに当たりますので、多数のご参加をお願い致します。
4. 3月12日(木)第3回情報集会、銀座アスター及び3月26日(木)第3回ゴルフ同好会、茨木ゴルフ倶楽部の回覧をしています。

出席報告

金子(勝)委員

本日の会員数	43名
本日の出席者数	30名
本日の出席規定適用免除会員	15名
本日の出席率	78.95%
1月24日の修正出席率	81.82%

SAAニコニコ箱

松浦副SAA

三木幹事 これから1年半、御協力の程宜しくお願ひします。
森 会員 例会欠席の御詫び。写真有難うございました。

松岡会員 いつもお世話になり、ありがとうございます。

委員会報告

ロータリー情報委員会

委員長 宮田照男

来る3月12日・木曜日、銀座アスターにて、第3回情報委員会を開催致します。今回のテーマは「我がロータリークラブの今後の夢を語ろう」と題しまして、ロータリーについての熱い思いを語って頂きたく、山本会員にCLPについて、出原会員には増強及び退会防止について、西村典三会員、郷田会員、瀧田会員の大先輩からも、今後のロータリーに対する思いを語って頂く事を予定致します。又、海外等他クラブの様子を有江会員にもお願い致しておりますので、お忙しいと存じますが、是非多数ご参加頂きまして、ロータリーの存在価値を認識して頂き、活性化にご協力下さいますようお願い致します。

親睦活動委員会

委員長 岩崎史郎

1. 3/26(木)第3回ゴルフ同好会を茨木CCで行います。年間スケジュール表では、第3回同好会の日程が3/27(金)と記載されています。ミスプリントですので、3/26(木)に訂正をお願い致します。
 2. 4/14(火)東輪会ゴルフコンペを飛鳥CCで行います。
 3. 5/14日(木)～5/15日(金)の春の家族会、箱根、宮の下温泉、武蔵野別館のパンフレットを入れています。
- ※ ゴルフコンペ、春の家族会共多数参加、よろしくお願い致します。

卓話

「2回目のイニシャルスピーチ」

宮崎 康治会員

人生は何だったかと振り返ってみて一言で言えば「平凡な人生である」ということです。特に変わった生き方をした訳でもありませんので皆様の前で言えるような中身は何もありません。適当に聞き流していただければ幸いです。平成2年に当

クラブに入会させていただき、現在 64 歳です。

職業分類については紙製品製造業と区分されております。細かい分類では祝儀用紙製品製造であり、祝儀不祝儀の袋等の製造販売です。当社の工場では金封、熨斗紙等の印刷及び製袋をしております。袋貼りは勿論機械であり、ワンタッチシール貼りから袋詰めまで一貫しております。現在手加工の水引金封類の多くは中国産が主力です。もともと伝統、習慣に基づいた商品ですので、タブーとされる制約があり商品企画上、新趣向、新形式の商品は売れにくかったということがあります。しかしながら昨今では少子高齢化と習慣の変化、現実には入学、結婚件数の減少、また会費制結婚式への移行とそれに伴う祝儀袋の使用の減少、香典を受け取らない葬儀の増加等により当業界にとっての向かい風が吹き荒れて来ました。そこで少量多品種高級化を図らざるをえなくなり、変わった素材の使用や、アイデアのある商品へとどんどん変化をしております。一方、量販店、ネット通販、百円ショップ等の拡大により、従来安定していた小売店ルートが影響を受け、販売先の構成が大きく変化し、古い価値観が通用しなくなりつつあり、新たな対応に四苦八苦しているのが現状であります。

会社の軌跡を辿りつつ自分の人生を振り返ってみました。戦後、昭和 21 年、父が中断していた事業を再開、松屋町筋（農人橋付近）へ引越、まだまだ焼け跡や草の茂っている空地も沢山残っており、車の通行量も少なく、信号機も少なかった。近所の友達が我が家に来る途中、松屋町筋を横断中事故でなくなるという事件がありました。子供心に悲しみに陥ったことが記憶に残っています。人生最初の葬儀に出くわしました。幼稚園児の頃のユニークな出来事、ジェーン台風来襲時、強風で家が揺れて怖かったこと、風が収まり表をみると、向かいの家の天井が飛び去っていた。その後、今日に至るまでこのような恐ろしい台風には遭遇しておりません。小中学生の頃は野球と水泳、高校時代はバレーボール、大阪府下 3～4 部のごく普通のレベルであった。チームプレーを楽しめた良き思い出です。学生時代は山登りに明け暮れ毎年 90 日近く山にこもっておりました。よく四年で

卒業できたものだと仲間と会うたび語り合っています。卒業後機会があり、ヒマラヤ東部のヒンズークッシュ山系の遠征に参加、7400 米峯に挑戦するも結果は遭難事故を起こし失敗。失意で帰国。長年にわたる山登りには終止符を打ちました。

以後は会社業務に専念、何とか現在に至っております。

2 月は世界理解月間

国際ロータリー第 2660 地区ガバナー 横山守雄

ポール・ハリスはじめ、ロータリーの創始者 4 人がシカゴで初めて会合を開いた 1905 年 2 月 23 日はロータリーの創立記念日となっていますが、その後、この日は「World Understanding and Peace Day」と定められていることからみても、ロータリー活動が、シカゴの街中の一つの Local な場所から、世界理解と平和を目指す国際的活動へと活動の範囲が広がって行ったことが分かります。そして 1917 年にロータリー財団の活動が始まったことで、ロータリーの Worldwide な活動が一段と活発になって行きました。

私たちロータリアンが「世界理解と親善」を本当に理解し、体験出来るのは、自分のクラブの W C S プロジェクトに実際に参加し、現地へ赴き、人々と交流を行った時に初めて会得できるのではないかと思います。幸いにも当地区では、殆どのクラブが独自の W C S プロジェクトを毎年実施しておりますから、クラブレベルでの国際奉仕と交流の機会は数多くあります。出来るだけ多くのロータリアンが W C S 活動に参加し「世界理解と親善」を体感されることが望まれます。

もちろん、ロータリーには W C S 活動のみならず、国際親善奨学生への派遣や受入、米山奨学生の受入、G S E チームの交換、青少年交換、など「世界理解と親善」に資するいろいろなプログラムがあります。

[ガバナー月信 2 月号より]